

普及活動情勢報告（令和4年10月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

梶原町の新たな観光資源を作ろう！ ～梶原町醸造用ブドウ収穫～



醸造用ブドウの収穫量を調査

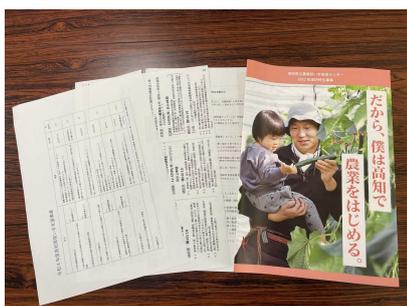
9月15日、22日、26日に、梶原町川西路のほ場で、令和2年に定植した醸造用ブドウ「シャルドネ」、「マスカットベリーA」の収穫が行われ、梶原高校の生徒や当課職員など、延べ50人ほどが参加しました。

当課は、梶原町でのブドウ栽培マニュアル作成を支援しており、収穫にかかる時間、延べ人数を調査しました。

今年は「シャルドネ」が737kg、「マスカットベリーA」が2,319kg収穫することができ、順調に収穫量が増加しています。

当課は今後も、梶原町の新たな観光資源として期待される醸造用ブドウの栽培支援を行っていきます。

後継者の研修開始に向けて ～関係機関による面談～



資料を使用して面談を実施

9月28日、10月12日、JA土佐くろしお営農経済センターの会議室で、12月から農業担い手育成センターで研修を開始する後継者とその親族、3組の面談を実施しました。

関係機関が、研修計画などの聞き取りと農業担い手育成センターの研修内容や補助事業申請についての説明をしました。当課からは、補助事業の要件について補足説明等を行いました。

後継者からは、研修を通じて「基本的な栽培の知識や環境制御機器の扱い方について学習したい」などの要望が出て、各々の研修目的を聞くことが出来ました。

当課は今後も、後継者に対し、外部研修などを通じて支援していきます。

促成サヤインゲンの収量・品質の向上を目指して ～JA 営農指導員と現地指導～



栽培初期のサヤインゲンほ場

9月29日、10月5日、13日に、須崎市及び中土佐町上ノ加江の促成サヤインゲン栽培農家5戸をJA営農指導員とともに巡回しました。

当課は、株の受光を良くしたり、分枝数を増やすためのジベレリン処理について、処理回数やタイミング、処理後の温度管理などを指導しました。

農家からは「処理後の日中の気温が高いと枝が良く伸びる」「気温が高ければ処理回数を少なくしてもよいかもしれない」といった声が聞かれました。

当課は、今後も定期的に巡回等を行い、収量・品質向上を目指して、栽培管理や病害虫対策を指導していきます。

おおのみエコロジーファーマーズと高知県立大学の交流活動支援 ～イネの勉強会&刈取体験～



はいポーズ！全員集合

9月30日、10月1日に、おおのみエコロジーファーマーズと高知県立大学COME☆RISH（管理栄養士を目指す学生の団体）が、交流活動を実施し、生産者4人、学生延べ20人、中土佐町職員2人が参加しました。

当課職員は講師として、イネについての知識・栽培技術について説明しました。1日目はイネについての勉強会を、2日目は刈取体験を支援しました。

学生からは「イネの基本的なことが分かった」「刈取体験で、農業の大変さを感じることができた」等の感想が聞かれました。

当課は、今後もおおのみエコロジーファーマーズの組織活動の活性化を支援していきます。

須崎市での農福連携の推進 ～第2回農福連携分科会～



情報交換する参加者ら

10月5日、須崎市役所で、農業、福祉分野の支援機関の職員など12人が一堂に会して、障害者の農業への就労支援などについて情報や意見を交換しました。

当課は、JAと共に、障害特性や品目により受入可能な作業は異なることなどを伝えました。

受入経験のある農家からは、障害者に寄り添い助言などができるコーディネーターの必要性や、障害者の農業に対する「土まみれになる」といったイメージが現状と違っていることなどの意見が出されました。

その他、相互理解の必要性や、移動（人、農産物）がハードルになることなどの情報が交換でき、有意義な会となりました。

今後は情報交換を深めながら、課題解決策も検討していきます。

新たな農業の担い手に！ ～梶原高校出前授業（米ナス・小ナス編）～



熱心に授業を受ける高校生ら

10月6日、津野山地域営農連絡協議会が、梶原高校農業コースの2・3年生24人を対象に、出前授業を開催しました。

当課職員2人が、津野山地域での米ナス・小ナスの栽培の歴史や栽培方法などについて講義しました。

次いで、農家のほ場で収穫・調製作業、箱詰めを体験し、最後に米ナス・小ナスを使った料理を試食しました。

生徒からは、「米ナス・小ナスについて詳しく知ることができた」「ナスは苦手だがおいしく食べることができた」といった声があり、農業に関心を持ってもらう機会となりました。

11月中旬に、ユズについての授業を計画しています。

当課は、今後も将来の農業の担い手確保に向けた活動を進めていきます。

ユズ産地の活性化に向けて

～津野山ユズ部会が馬路村農業協同組合と出荷前意見交換会～



挨拶をする部会長

10月12日、JA高知県津野山ユズ部会が馬路村で、馬路村農業協同組合との出荷前の意見交換会を開催し、ユズ部会員と、JA津野山営農経済センター、梶原町、当課職員など8人が参加しました。

当課は、津野山地域の今年の果実肥大状況、着果数等について情報提供を行いました。

また、津野山地域ユズ産地協議会が今年度策定した果樹産地構造改革計画の紹介や、馬路村の現状や担い手確保に向けた取組について、活発な意見交換が行われました。

当課は今後も、津野山地域のユズ出荷量増大に向けて、担い手の確保や園地の維持への支援を行っていきます。

経費高騰に負けるな！SAWACHI で増収！

～「環境測定装置勉強会」にて～



SAWACHI 活用方法を説明する
環境制御普及推進担当職員

10月19日、JA土佐くろしおで「環境測定装置勉強会」が県内の営農指導員と普及指導員約60人を対象に行われました。

JA土佐くろしおが、環境制御技術への取り組み経緯と今後の営農指導のあり方について説明し、管内で使われている環境測定装置について、3社のデモ機で実演を行いました。

当課からは、営農指導員と連携した「SAWACHI」活用方法を説明し、BIツールによる産地分析データを活用したミョウガ高温対策について紹介しました。

今後も、当課は職員のデータ分析スキルを強化し、経費高騰に負けない産地づくりに取り組んでいきます。